

オーエスジー株式会社 グリーンボンド・フレームワーク

2023年3月

1- はじめに

オーエスジー株式会社(以下、「当社」)は、切削工具メーカーで世界初となるグリーンボンド・フレームワーク(以下、「本フレームワーク」)を以下のとおり策定しました。

本フレームワークは、国際資本市場協会(ICMA)が定めるグリーンボンド原則 2021、環境省のグリーンボンドガイドライン(2022年版)に基づき策定しており、適合性に対する外部評価(セカンドオピニオン)を、株式会社日本格付研究所(以下、JCR)から取得しております。

当社は、本フレームワークに則り、グリーンボンドを発行します。

1-1. 当社の概要

当社は、1938年東京に創立して以降、砥石でタップを研削する技術を始めとするさまざまな独自技術の開発により生まれた革新的な製品と、新たな販売ルートの開拓を通じて、世界の切削工具市場を切り拓きました。創業当時から受け継がれている“チャレンジ精神”が、独自の高い技術力や世界33カ国のグローバルネットワークなどの現在の企業価値を支える原動力となっています。

今後もさまざまな課題に“挑戦”していくことで、地球規模でのさらなる発展を目指します。

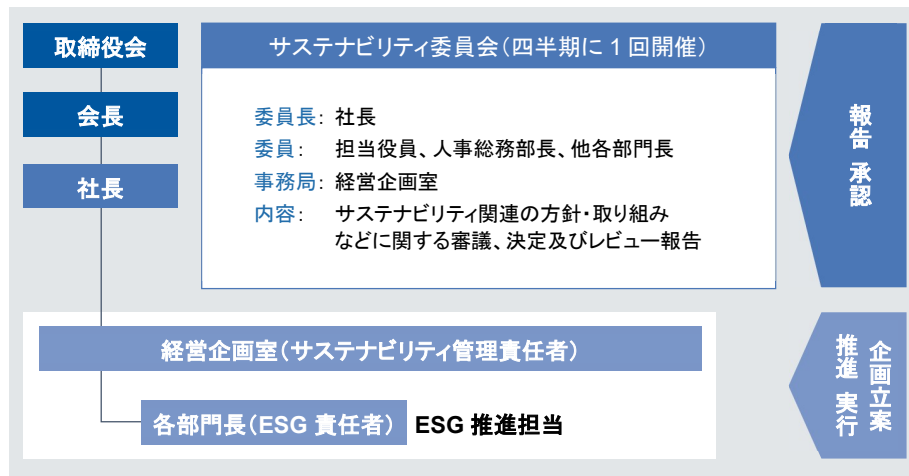
1-2. ESG 経営

オーエスジーグループ(以下、当社グループ)は、中期経営計画「Beyond the Limit 2024」を実現するため、成長戦略とESGの取り組みを結びつけることで創出する企業価値の最大化に向けて、ESG視点の重要課題「マテリアリティ」を特定しました。

1-2.1. サステナビリティ基本方針

当社グループは、独自の高付加価値な製品とサービスを通じて、世界中のサステナブルなモノづくり産業に貢献するエッセンシャル・プレーヤーとして、社会の持続的な発展に寄与することを目指します。

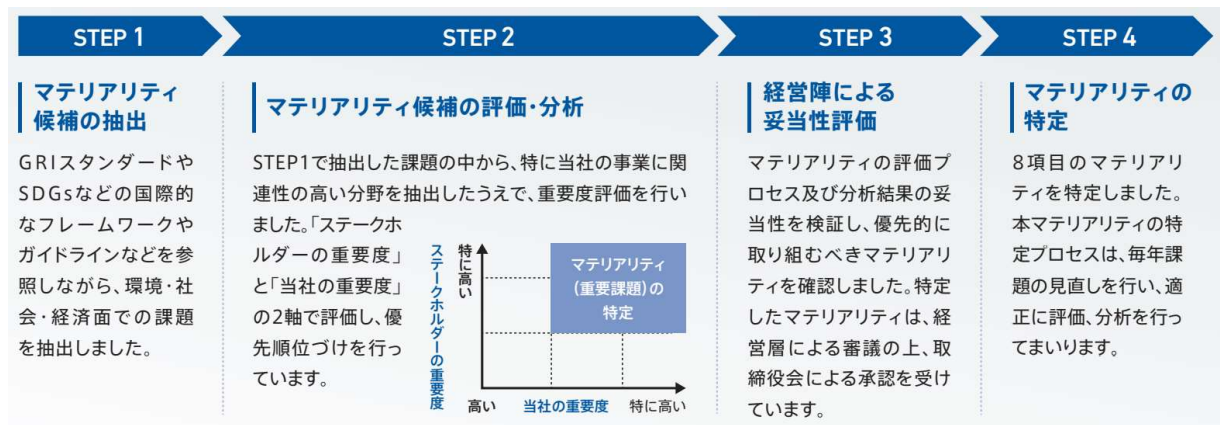
「サステナビリティ委員会」では、ESGに関連した課題や、方針やビジョンの徹底、重要施策などについて審議し、活動状況を定期的に取り締役会へ報告します。サステナビリティ推進のための施策は、サステナビリティ委員長である社長の決定の下、各組織の部門長(ESG責任者)及び推進担当者が実行していきます。



1-2.2. 当社グループのマテリアリティ(重要課題)

当社グループは、SDGsの実現に向けて、当社グループが優先的に取り組むべき8項目のマテリアリティを特定しました。

【マテリアリティの特定プロセス】



【当社グループのマテリアリティ】

気候変動への取り組み

TCFDへの賛同を表明し、気候変動による事業影響への適応に努めると共に、脱炭素社会へ寄与する事業活動の推進や、温室効果ガス排出量削減に取り組んでいます。



地域社会の持続的発展① スポーツ振興への取り組み

東三河プロバスケットチーム「三遠ネオフェニックス」のトップスポンサーとして地元プロスポーツを応援しています。また、無料観戦招待イベントを開催し、地域の活性化につなげています。



働きがいのある職場環境の整備

社員一人ひとりが誇りとやりがいを持ち、多様性を活かして、能力を最大限発揮できる環境を整備します。



地域社会の持続的発展② 医療機関・施設への応援

新型コロナウイルス感染症対応への応援として、医療従事者へ防護服やマスクの寄付、近隣地域の職域接種の運営に協力しました。障がい者支援施設へ什器等の備品を定期的に寄贈するなど、あたたかい地域づくりに貢献しています。



障がい者雇用への取り組み

特例子会社設立という将来像を描き、2021年6月に「特例子会社準備チーム」を設立しました。共に働く社員として、障がい者の適性や症状に配慮し、働ける環境を整備しています。



コーポレートガバナンスの充実

取締役会は独立性の高い社外取締役が過半数を占め、経営監督機能を十分に発揮できる体制となっています。コーポレートガバナンスを充実させる仕組みとして、グループ全体で企業倫理遵守の行動指針を共有し、意識向上を図っています。



安全健康経営

「健康会社」として、従業員が安全・健康であることを重要な経営課題ととらえ、「従業員の健康増進」「快適で安全な職場環境づくり」を推進します。



サステナブルファイナンス

KPI達成状況をモニタリングし情報開示するために、「ESG評価型資金調達」を契約しました。また、投資に関わる資金調達の際には、「サステナビリティリンクローン」「グリーンボンド」等のサステナブルファイナンスの導入を検討し、ESG/SDGs経営の高度化に尽力します。



1-3. 中期経営計画「Beyond the Limit 2024」

当社グループは2021年度より経営体制を一新し、新たな経営体制のもと中期経営計画「Beyond the Limit 2024」をスタートさせました。2022年11月期から2024年11月期までの3年間で、事業効率の再強化に注力し、収益性を改善し強固な企業体質をつくり、カーボンニュートラル時代に向けて世界のモノづくり産業に貢献することを目指します。

【基本方針】

- 世界のモノづくり産業に貢献するエッセンシャル・プレーヤーとして変身するため、長期ビジョンを3つのステージに分けて最初の3年を「Beyond the Limit 2024」として、体質強化を図ります。
- 3つのステップで、社会環境の変化に対応するよう、2030年までに顧客別ポートフォリオ構成を変化させていきます。
- カーボンニュートラル時代に向けて、グループ会社一体となって全体最適を目指した企業価値の向上への取り組みを行います。

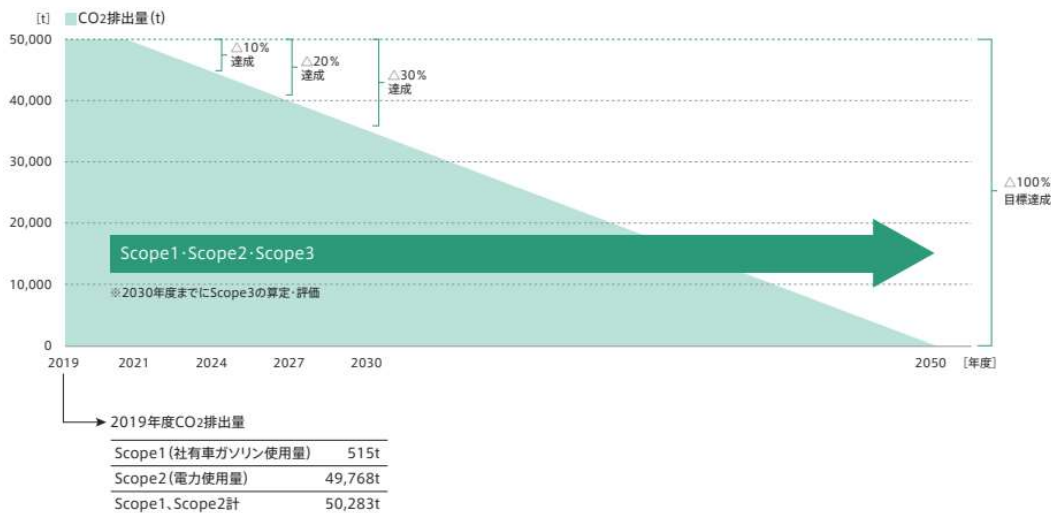
1-4. 気候変動への取り組み

当社は、2022年1月に発表した中期経営計画「Beyond the Limit 2024」において以下の目標を掲げています。

- 2030年度目標:2019年度比30%削減
- 2050年度目標:カーボンニュートラル達成

また、2030年度までにScope3の算定・評価を予定しており、サプライチェーン全体でCO2排出量の削減に取り組んでまいります

【カーボンニュートラル宣言】(目的達成に向けたCO2削減イメージ)



1.4.1 省エネ、効率化への取り組み

当社グループは、ものづくりにおける省エネ化、効率化を実現する新製品や新サービスの開発及び提案に取り組んでいます。さらに当社で、2024年度までに2021年度対比で炭素生産性を14.2%向上させることを目標に、環境負荷を軽減するために、各プロセスにおいて「省資源・省エネルギーの推進」、「廃棄物削減」「超硬素材リサイクル活動」などにも取り組んでいます。当社グループはこれまでも全社を挙げて電力使用量削減をテーマとし、「エネルギー使用量の効率化」や「省エネ設備への代替化」を進める活動を展開してきました。具体的活動としては、熱源機、変圧器、空調機をトップランナー機器に更新し、全社でのLED化推進、重油設備廃止等を実施しました。今後も、気候変動問題への対応を成長の機会ととらえ、「長年使用し老朽化している機械の刷新」及び「能力増強、生産効率向上のための機械の増設」を行い、製品の製造時に排出されるCO₂を減少させていくことで、付加価値の創出と環境への負荷低減を両立させていきます。

● 大池工場の改修

当社グループは省エネ、効率化への取り組みの一環として、大池工場の改修を予定しています。工事期間は2024年5月から2028年4月を予定しており、工場の敷地面積は約16,800㎡になります。改修後の工場には太陽光パネルやEVスタンドが設置され、CASBEE:B+ランクを取得予定です。今後も、当社グループは製造拠点における再生可能エネルギーの活用、省エネ化によりCO₂排出量削減に取り組んでまいります。

※大池工場改修後イメージ図



● CAE解析による切削シミュレーションの導入

製品の開発プロセスにおいて、従来は試作品を作成し試す作業を繰り返していましたが、切削加工シミュレーション活用によって試作品の量を減らすことができ、自社の廃棄物を減らすことが可能になります。CAE解析の導入により試作品を削減することでエネルギー使用量の効率化に貢献しています。

1.4.2 環境配慮型の製品

当社は環境に優しい製品づくりやお客様への環境に優しい製品の提供に努めています。省資源化、製造プロセスの短縮化に向けた製品の開発、活用を通じて環境負荷低減に積極的に取り組んでいます。

【製品例】

- ドリル

従来ドリル加工には安定加工のために高圧クーラントが必須であるが、効率的な油剤供給が可能な穴形状を開発し、従来よりも約 56%の電力消費を削減可能

※製品イメージ図

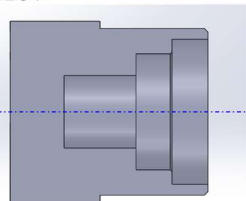


- PDZ

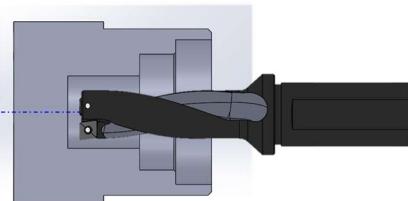
製品を制作する際に、従来は 4 本の製品が必要であったが、PDZ を使用することで 1 本にて加工が可能。サイクルタイムが短縮されることにより、従来よりも電力消費量を削減でき、工具廃棄ロスの削減にも繋がる製品

※製品イメージ図

※従来4本の工具が必要



※PDZで加工することで工具集約が可能に



1.5 グリーンボンド発行の意義

サステナブルファイナンスは当社グループが掲げるマテリアリティの 1 つであり、2050 年カーボンニュートラル目標の達成に向けた投資における資金調達手段として活用します。

製造拠点のグリーンビルディング化や、再生可能エネルギーの活用、製造工程での省エネ化、効率化に必要な投資資金をグリーンボンドの発行を通じて調達しますが、発行後のレポートングによって、投資の効果を示すことで当社の ESG/SDGs 経営の高度化に取り組めます。

2 グリーンボンド・フレームワーク

本フレームワークは、国際資本市場協会 (ICMA) が定めるグリーンボンド原則 (GBP) 2021 及び環境省のグリーンボンドガイドライン (2022 年版) に適合しており、以下 4 つの柱について定めています。

1. 調達資金の用途
2. プロジェクトの評価と選定のプロセス
3. 調達資金の管理
4. レポーティング

当社は、このフレームワークに基づき、グリーンボンドを発行してまいります。

2-1. 調達資金の用途

当社により発行されるグリーンボンドの発行総額と同額が新規ファイナンス又はリファイナンスとして、新規又は既存の適格プロジェクトへ充当されます。なお、既存プロジェクトへの充当の場合は、グリーンボンドの発行から 2 年以内に実施されたものとします。

適格プロジェクトは、当社及び当社グループ会社により実施される以下の適格クライテリアを満たす設備投資や費用とします。

【グリーンボンド適格プロジェクト】

適格事業区分	GBP カテゴリー	適格クライテリアとプロジェクト
省エネルギー	■ グリーンビルディング	<ul style="list-style-type: none"> ■ 以下のいずれかの環境建物認証をグリーンボンド発行日から遡って過去 24 か月以内に取得又は更新した建物。又は、将来取得又は更新予定の建物 <ul style="list-style-type: none"> ・ CASBEE 建築 (新築、既存、改修)、CASBEE 不動産認証：B+ランク、A ランク、S ランク ・ ZEB 認証における ZEB、Nearly ZEB、ZEB Ready、ZEB Oriented ・ BELS：3 つ星、4 つ星、5 つ星 ・ DBJ Green Building 認証：3 つ星、4 つ星、5 つ星 <p><プロジェクト例></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大池工場の改修費用 (CASBEE 認証：B+ランク取得予定)
	■ 製品開発プロセスにおけるエネルギー効率	<ul style="list-style-type: none"> ■ 試作品を削減することで従来比 30% 以上のエネルギー効率向上を実現するシステム導入及び維持費用 <p><プロジェクト例></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ CAE 解析による切削シミュレーション
環境配慮型の製品	■ 環境適応製品、環境に配慮した生産技術及びプロセス及び/又は、認証を受けた高環境効率製品	<ul style="list-style-type: none"> ■ 従来比 30% 以上のエネルギー効率向上を実現するための研究開発、製造に係る設備導入や費用 <p><プロジェクト例></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 省電力に資する環境配慮型製品 (ドリル) ■ 工程集約による省電力・廃棄物削減に資する製品 (PDZ)
消費エネルギー	■ 再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 再生可能エネルギー電力設備導入費用 ■ 再生可能エネルギー由来電力の購入費用

除外クライテリア

グリーンボンドで調達された資金は下記に関連するプロジェクトには充当しません。

- 所在国の法令を遵守していない不公正な取引、贈収賄、腐敗、恐喝、横領等の不適切な関係
- 人権、環境等社会問題を引き起こす原因となり得る取引

2-2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

資金用途とする適格プロジェクトは、財務部門が適格クライテリアに基づいてプロジェクトの候補を選定し、財務部門及び品質保証部等で協議を行い、社長を委員長とするサステナビリティ委員会にて最終決定します。

なお、すべての適格候補プロジェクトについて、環境・社会的リスク低減のために以下について対応していることを確認します。

- ・ 国もしくは事業実施の所在地の地方自治体にて求められる環境関連法令等の遵守と、必要に応じた環境への影響調査の実施
- ・ 事業実施にあたり地域住民への十分な説明の実施
- ・ 当社グループのサステナブル調達ガイドラインに沿った資材調達、環境汚染の防止、労働環境・人権への配慮の実施

2-3. 調達資金の管理

調達した資金は、当社の経理部が適格プロジェクトへの充当及び管理を行います。なお、本フレームワークにて調達された同額が適格プロジェクトに充当されるよう、定期的にエクセル表を用いて、追跡、管理します。

調達資金が適格プロジェクトに充当されるまでの間は、現金又は現金同等物にて運用します。なお、調達資金は発行から5年程度の間で充当を完了する予定です。

2-4. レポーティング

当社は適格プロジェクトへの充当状況ならびに環境への改善効果を年次にて統合報告書及び当社ウェブサイトにて報告します。

2-4.1. 資金充当状況レポーティング

グリーンボンドにて調達された資金が全額充当されるまでの間、年次で、調達資金の適格プロジェクトへの充当状況に関する以下の項目について、実務上可能な範囲でレポートする予定です。

- 調達資金の適格プロジェクトへの充当額合計
- 適格事業区分別での充当額と未充当額
- 未充当額がある場合は、充当予定時期
- 新規ファイナンスとリファイナンスの割合

なお、調達資金の金額が充当された後に大きな資金配分の変化が生じた場合は、適時開示します。

2-4.2. インパクトレポーティング

当社は、グリーンボンドの償還までの間、以下の指標及びプロジェクト概要を実務上可能な範囲にてレポートします。また、大きな状況の変化が生じた場合は、適時に開示します。

【グリーンボンド適格プロジェクト】

適格事業区分	GBP カテゴリー	インパクトレポーティング項目(例)
省エネルギー	■ グリーンビルディング	■ 設備の概要 ■ 設備投資進捗状況 ■ 認証取得状況(取得予定時期・取得した認証の種類、レベル) ■ CO2 排出量

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 製品開発プロセスにおけるエネルギー効率 	<ul style="list-style-type: none"> ■ システム導入により削減された試作品の数 ■ 試作品の数が減少したことによる消費電力削減量
環境配慮型の製品	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境適応製品、環境に配慮した生産技術及びプロセス及び/又は、認証を受けた高環境効率製品 	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロジェクト概要(性能等) ■ 消費電力削減量 ■ エネルギー効率向上による CO2 排出削減量 ■ 研究開発の場合、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究開発計画の概要と進捗状況 ・ 研究開発対象事業の概要と目指す効果についての説明(想定利用目的、最終製品や効果等)
消費エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 再生可能エネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロジェクト内容 ■ 再生可能エネルギー利用による CO2 排出削減量 ■ 再生可能エネルギーの発電容量(発電実績) ■ 再生可能エネルギー由来電力の購入量

以上